



平成27年9月2日
海上保安庁

夏季マリンレジャー安全推進活動期間の事故発生状況《速報値》

(7月1日～8月31日の2か月間)

■人身事故者数 447人、うち死者・行方不明者 121人

◇人身事故者数は、昨年より57人増加、死者・行方不明者は昨年より19人増加となった。

◇「遊泳中」の事故者数は237人（5割以上）と最も多く、うち飲酒を伴う事故者数は昨年より18人増加の42人であった。

◇若年齢層（15歳以下）の遊泳中の事故者数は51人、うち死者・行方不明者は9人であった。

◇シュノーケル使用中の事故者数は昨年より8人増加の53人、うち死者・行方不明者は昨年より6人増加の28人であった。

■プレジャーボート等の事故隻数 253隻、うち死者・行方不明者 2人

◇プレジャーボート等の事故隻数は、昨年より33隻減少で、過去5年間で最少となった。

◇機関故障、燃料欠乏、バッテリー過放電による事故は約3割で、例年と同傾向であった。

◇花火大会に伴う事故は10隻で、負傷者は25人であった。

(詳細は別添のとおり)

【参考】過去5年間の夏季マリンレジャー安全推進活動期間における事故の推移

		平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
人身事故	事故者数(人)	472	488	435	390	447
	死者・行方不明者数(人)	131	135	127	102	121
船舶事故	プレジャーボート等の事故隻数(隻)	313	342	314	286	253
	死者・行方不明者数(人)	4	3	3	2	2

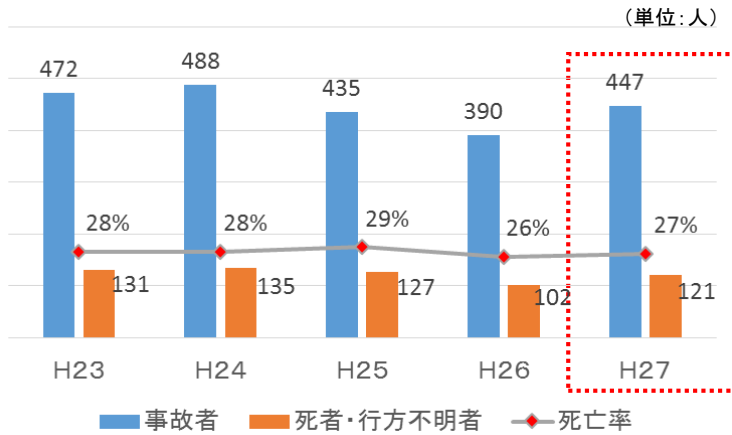
- ・「人身事故」とは、船舶事故に伴わないプレジャーボート等乗船中の事故及びマリンレジャー活動に伴う海浜事故をいう。
- ・「マリンレジャー活動」とは、海水浴、釣り、潮干狩り、サーフィン、ボードセーリング、スキューバダイビング、バナナボート、ウェイクボート等の海浜における余暇活動をいう。
- ・「船舶事故」とは、衝突、乗揚、転覆、浸水、爆発、火災、行方不明及び機関、推進器、舵等の損傷又は故障及びその他安全な運航が阻害された事態をいう。
- ・「プレジャーボート等」とは、プレジャーボート（モーターボート、ヨット、水上バイク等）及び遊漁船をいう。



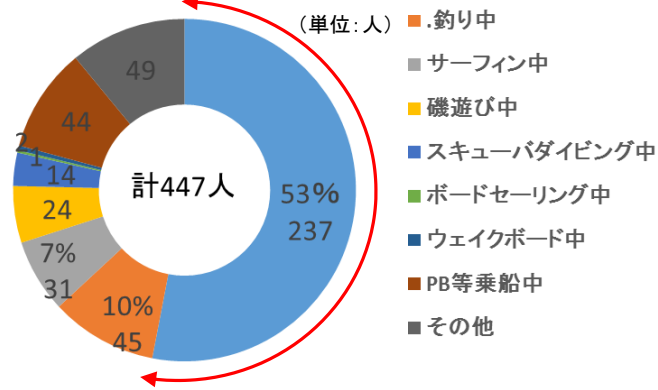
人身事故の傾向

- ◇事故者数は**447人**、うち死者・行方不明者数が**121人**、死亡率**27%**であった。
- ◇例年どおり、遊泳中の事故者が最も多く、平成27年は、**237人**であった。

事故者数



事故者数内訳(H27)

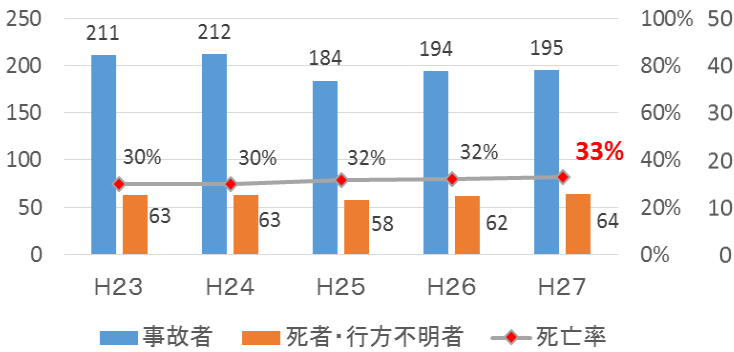


5割以上

- ◇遊泳中の事故者のうち、飲酒をしていた事故者数は**42人**で過去5年間で最多であった。
- ◇遊泳中の事故者のうち、飲酒をしていなかった事故者の死亡率**33%**に対し、飲酒をしていた事故者の死亡率は**48%**であり、**飲酒による死亡のリスクは高い**結果となっている。

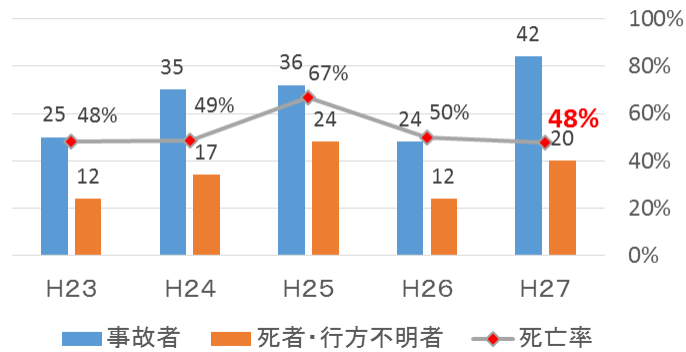
遊泳中の事故者数(飲酒なし)

(単位:人)



遊泳中の事故者数(飲酒あり)

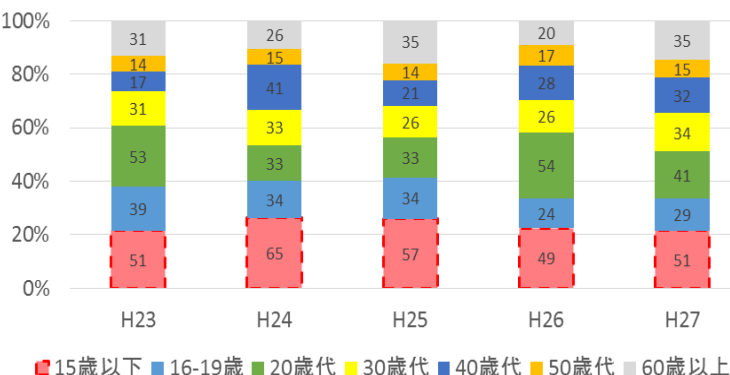
(単位:人)



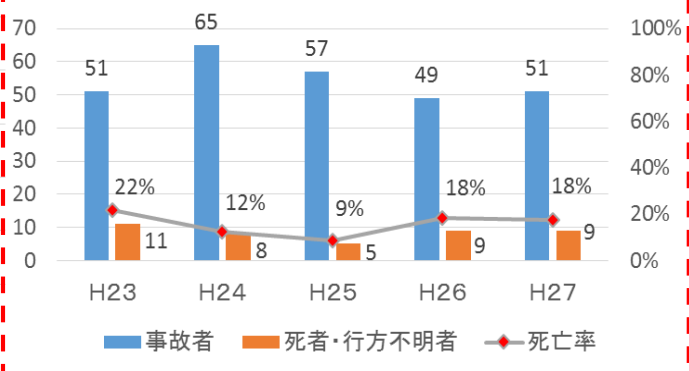
- ◇遊泳中の事故者を年代別で見ると、若年齢層(15歳以下)が**51人**と最も多く、うち死者・行方不明者が**9人**、死亡率**18%**であった。

遊泳中の事故者数(年代別)

(単位:人)

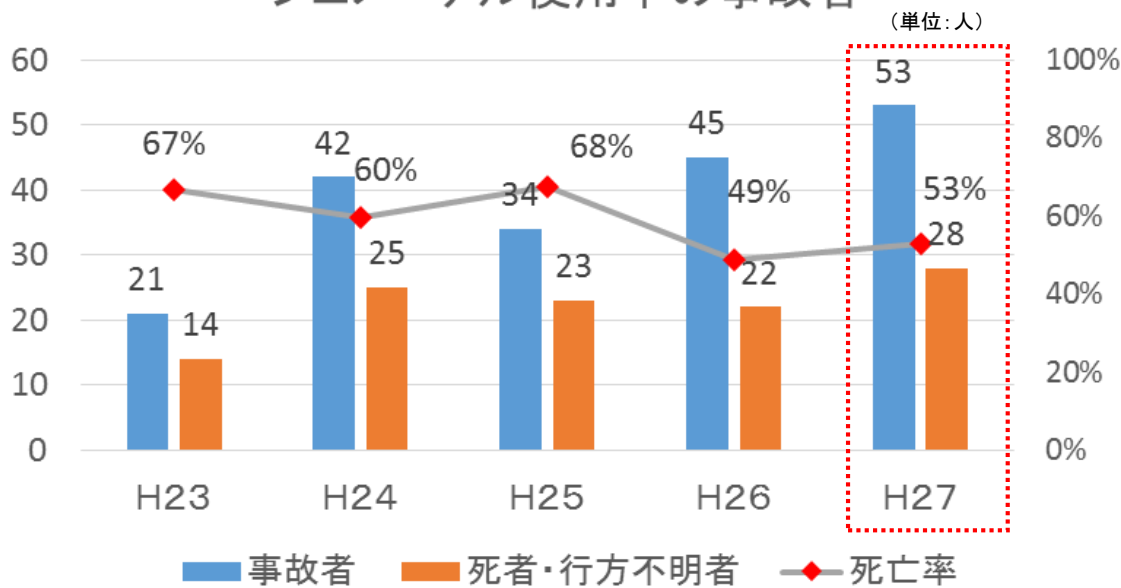


遊泳中の事故者数(15歳以下)



◇シュノーケル使用中の事故者数は53人、うち死者・行方不明者数が28人で過去5年間で最多であった。

シュノーケル使用中の事故者



事故事例

【飲酒遊泳の事故事例】

事故者（20代男性）は、前日夜に友人ら9名と浜辺で飲酒を伴うバーベキューを行った後、友人らが睡眠している中、友人1名（20代女性）と一睡もせず飲酒を続け、翌朝、遊泳のため海に入り溺水した。一緒にいた友人1名（20代女性）が助けを求め、駆けつけた友人により海底で発見されたが、死亡が確認された。

【子供の事故事例】

事故者（男児）は、両親らがバーベキューをしている付近の浜辺で、他の児童ら10人と浮き輪に入って遊んでいたが、両親らが目を離した約10分の間に浮き輪から滑り抜けて溺水した。一緒に遊んでいた児童が即座に引き揚げたところ、意識及び呼吸はなかったが、駆けつけた海の家の従業員等の心肺蘇生により意識を取り戻した。

【シュノーケル使用中の事故事例】

事故者ら（祖父、父親とその子供2名）は、シュノーケリングを楽しんでいたが、高波に子供2名が流されたため、祖父と父親が救助に向かうも共に沖に流された。事故者のうち子供1名（女兒）は付近観光客に救助されたが、残る子供1名（男児）と祖父、父親は発見後、死亡が確認された。子供2名は、素潜りがしたいとの理由からライフジャケットを脱いで遊泳していた。

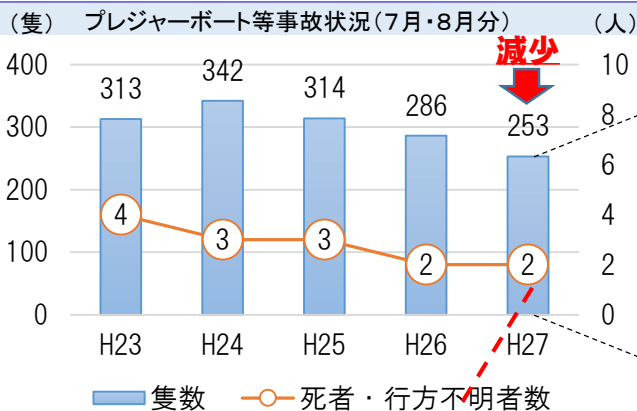
【夏季期間中に重点を置いて実施した事項】

- ・ 飲酒遊泳の危険性を訴えるため、酒類業組合中央団体連絡協議会加盟団体に対し自主的に、適正飲酒を促す啓発を実施するよう働きかけていたところ、今夏初めて同協議会加盟団体の一部が自主的にHPで飲酒遊泳の危険性について呼び掛けを実施した。
- ・ 子供の事故を減少させるため、「親は子供から目を離さない」、「万一の場合は『浮いて待て』を実践する」などテレビ、ラジオ、雑誌など、あらゆる手段を通じて、注意喚起を実施した。
- ・ 8月にはシュノーケル使用中の死亡事故が相次いだことから、シュノーケル使用中の事故防止のポイント等について、マスメディア等を通じた注意喚起を重ねて実施した。

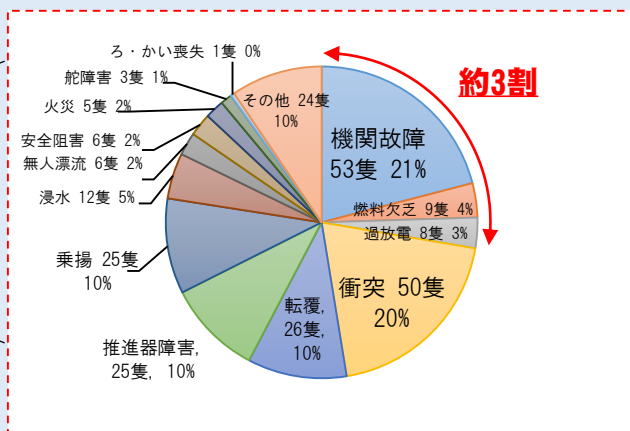
船舶事故発生状況(7月・8月)

○プレジャーボート等の事故傾向

- ◇事故隻数は**過去5年間で最少**
- ◇事故の種類の詳細は依然として「機関故障」、「燃料欠乏」、「バッテリー過放電」によるものが**約3割**



H27年プレジャーボート等事故種類別割合



○死者・行方不明者を伴う事故

【モーターボート事故】

兵庫県豊岡市津居山港において、モーターボート(乗船者2名)が帰港中、防波堤に衝突。死者1名、負傷者1名。

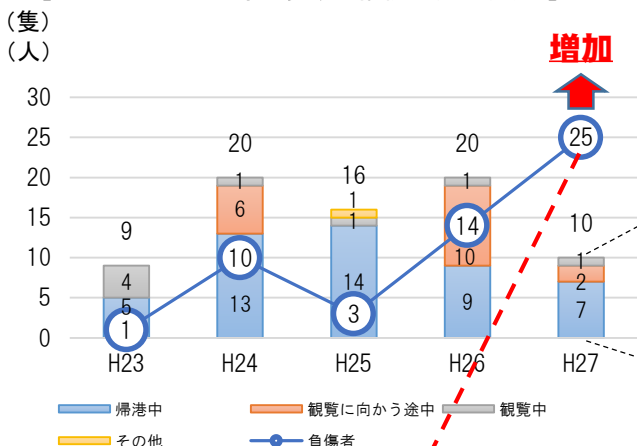
【ミニボート事故】

京都府舞鶴市野原港沖において、ミニボート(乗船者2名)が転覆し、2名が海中転落。1名は岩場に這い上がったが、もう1名は岩場に挟まり死亡。死者1名、負傷者1名。

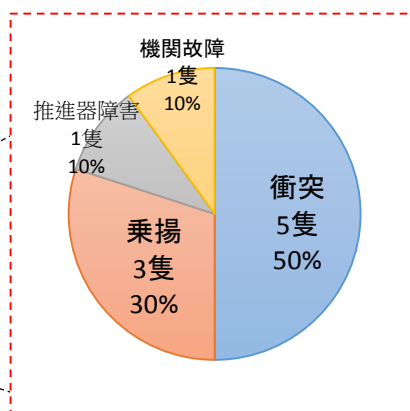
○花火大会事故状況

- ◇花火大会における船舶事故に伴う負傷者が**増加(前年比+11人)**
- ◇主な事故の種類は衝突及び乗揚で、それらの原因の多くは見張り不十分。

【花火大会における事故隻数の推移(7月・8月分)】



【花火大会における事故種類】



引き続き花火大会における事故に**要注意!**

○主な負傷者を伴った事故

【乗揚事故】

愛知県常滑市セントレア空港島付近において、モーターボート(乗船者8名)が花火大会観覧後の帰港中に、護岸に乗揚。負傷者7名。

【衝突事故】

兵庫県阪神港において、クルーザーボート(乗船者9名)が芦屋花火大会を観覧後、同日開催の岸和田花火大会の花火を目標に移動中、防波堤の存在に気付かず衝突。負傷者9名。